令和6年度　事業報告

社会福祉法人ともいき会

◇法人理念 「ともにいきる」
　理念を実現していけるよう、地域の中で「はたらく」ことを通して、その人なりの生活を営み、ともにいきる社会を目指していくために、幼児期から成人期まで、ライフステージを通して切れ目のない支援を提供していきます。

◇基本姿勢
・人を大切にします
　ひとりの「人」として向き合うこと。
　相手の良さを知り、自分の良さを知ること。
　相手から学び続けること。

・誠実に向き合います。
　人に対して誠実に向き合うこと。話を聴き一緒に考えること。
　仕事に対して誠実に向き合うこと。報告連絡相談を徹底し、常に考え、実行、見直していくこと。
　行動言動が常に法人の職員として見られていることを意識すること。
　法令等を遵守すること。

・「はたらく」姿を支えます。
　先が見通せることで保護者に安心感を与えること。
　できることに着目し、体験を通して、社会性を身に付けること。
　はたらくことができることを実証し続けること。

1. 法人本部所在地

〒388－8007　　TEL　026－299－3787
長野県長野市篠ノ井布施高田1034－3　　FAX　026－299－3839

2. 役員組織

理事:6名　　監事:2名　　評議員:7名

3. 総　括

3年に一度見直しをされる報酬改定は、令和6年度に実施され、その内容については、報酬基準や人員配置、加算などについて1年間を通して、その都度行政と相談しながらかみ砕いてきた年度となりました。

年度末での職員数は44人（うち育児休暇中1人）、昨年と同数となりました。年度途中での退職者は2名、採用も2名となっています。職員の定着については、事業を進めていく上で考え続けていく課題となっていますが、運営会議を中心にキャリアアップに向けた取り組みを検討してきています。

社会福祉充実残額に伴う社会福祉充実計画については、令和6年8月に施設整備に関わる補助金の内示を受けました。これに基づき設計事務所と実施設計の打ち合わせを重ね、令和7年5月に長野市の審査が完了しました。今後、6月25日に一般競争入札、7月に着工、令和8年3月に竣工、4月に事業開始の予定となっています。

事業収入については、前年度比-1.1%となりました。各管理者が立てた予算比は、-1.0%となりました。予算作成時に、訓練等給付費については前年度実績から事業所としての報酬単価が下がることが予測されていたため、収入減については見込み通りでした。前年度実績が報酬に直結する事業となっていますので、サービス内容とともに数にもシビアに目を向けていくように活動していきます。

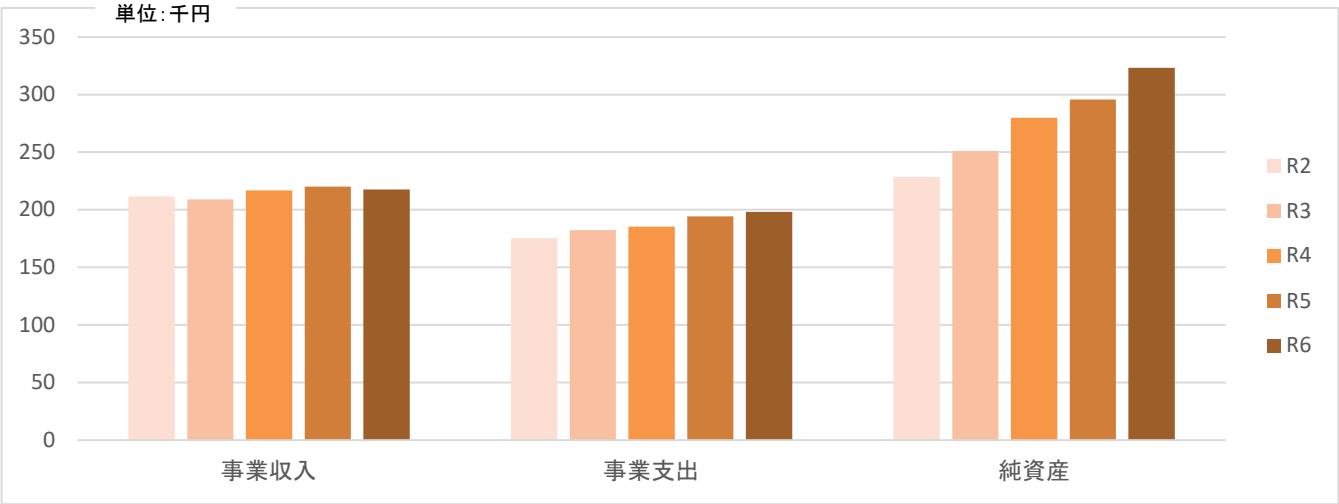
事等支出については、全体としては昨年度とほぼ同じ金額となりました。補助金等を活用しながら各事業の備品購入等行いました。人件費率は71.2%（障害福祉サービス70.5%、公益事業73.9%となりました。

設備資金における借入については、今年度をもって完済しました。

4. 経　営

社会福祉法人ともいき会　過去5年間決算推移　（単位：千円）

	R2	R3	R4	R5	R6	前年比
事業収入	211,619	208,991	216,718	220,076	217,712	98.9%
事業支出	175,419	182,396	185,459	194,144	198,050	102.0%
(うち人件費)	137,159	145,463	148,941	154,705	154,935	100.1%
人件費率	64.8%	69.6%	68.7%	70.3%	71.2%	-
福祉事業活動資金収支差額	36,200	26,595	31,259	25,933	19,662	75.8%
施設整備・財務活動収支差額	-24,687	-14,501	-49,277	-20,753	-13,896	67.0%
当期収支差額	11,513	12,094	-18,018	5,180	5,766	111.3%
純資産	228,509	250,884	279,867	295,711	323,270	109.3%



5. 各種会議

会議名	回数	主な協議内容
理事会	3	R6.6. 3　監事監査 R6.6. 7　令和5年度事業報告、計算書類、財産目録 R7.3.12　令和7年事業計画、予算
評議員会	1	R6.6.24　令和5年度事業報告及び決算報告
運営会議	月1回	・各事業所運営経営状況確認、課題、対策に向けた取り組み検討
各部会議	月1回	・人材育成部会　・権利擁護部会 ・安全衛生部会　・リスクマネジメント部会　・地域部会
虐待防止・身体拘束適正化委員会	4	・虐待未然防止や事案発生時の検証と結果の周知徹底 ・身体拘束適正化のための指針の整備 ・権利擁護部会との連携による研修の実施
感染症対策委員会	4	・利用者、職員の健康管理 ・平時から感染予防に関する決定事項や具体的対策の周知 ・感染症発生時の感染対策、拡大防止の指揮 ・安全衛生部会との連携による研修と訓練の実施

6. 苦情受付

件数　0件
　苦情は法人に対する要望として捉えていく姿勢を持ち続け、サービスの質の向上に向けて誠実に支援に取り組みました。

7. 虐待事案

件数　1件
　本人とのやり取りの中で、スタッフ側の指示が通らなかったため、強い口調での指示と、肩を押してしまったという事案が発生しました。
　マニュアルに基づき、本人保護者への状況説明謝罪、長野市障害者虐待防止センターに通報相談を行いました。センターからは職員全体への周知と法人の方針に基づいて対応するよう指示を受け、虐待防止委員会を開催し、事案の検証と今後の対策について検討を行いました。
　各部署職員全員が、それぞれの立場で自分だったらという振り返りと理想的な事業所について話し合いを行いました。
　法人としては、権利擁護部会を中心に研修を継続し、法人理念、基本姿勢に立ち返り、伝え続けていく重要性を再認識しました。

8. 各部会

◇人材部会

・目的　法人職員の研修事業を中心とし、質の向上のために要求されるスキルを身につけると共に利用者や法人に貢献できるようスタッフの育成を目指していきます。

・内容

○職員全体研修(2月)
・発達支援センター・放課後等デイの1年目、2年目職員が年間を通じて一研究に取り組み、事例発表を行いました。また、他の新人職員は『1年を振り返って』というテーマで発表を行いました。
・全職員が受講できるよう動画を活用し、後日視聴しました。

○外部講師を招いての研修(長野市出前講座　R6.11.20　16時～17時)
講師:長野市職業相談室　堀内　亜希氏
テーマ: 『なぜ今職場にコミュニケーションが必要なのか』
・職場内で利用者や保護者、職員同士でのコミュニケーションの図り方(伝える、受け取る)を演習を取り入　れながらお話して頂きました。

○新人職員研修
・法人の理念や各センターの役割について学びました。
・部会による研修:安全衛生部会(AED研修)、リスクマネジメント部会(ヒヤリハット)について学びました。
・法人内OJT研修:R6.5～R7.1

○外部研修、資格研修等
・県内研修:21研修(延べ31名参加)
・県外研修:9研修(延べ10名参加)
・オンライン研修:6研修(延べ13名参加)

○その他
・広報誌:外部向け第4号発行、内部向け　R6.5月発行
・職員面談:年3回実施

◇権利擁護部会

・目的　虐待防止の啓発及び研修を進め、人権の尊重や権利擁護の具現化をすること、並びに利用者に安心と安全を提供するサービスの質の向上を目指した活動を展開します。

・内容

○職員全体研修(7月)
改正障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮の義務化に関する内容の研修の実施しました。

○外部研修への参加
・第1回障害者虐待防止・権利擁護研修会(2名)
・第2回障害者虐待防止・権利擁護研修会(1名)
・管理者向け障がい者虐待防止・権利擁護研修会(1名)
・第3回障害者虐待防止・権利擁護研修会(3名)
※外部研修については、各部署より代表として参加し、その後部署内において伝達研修を実施しました。

○啓発活動
「ほっこり企画」について

職員より、ほっこりとする言葉、好きな言葉を募集し、イラストや写真と合わせて各拠点に掲示をしました。当初は職員で投票を実施し、応募作品の中から大賞を決める予定でしたが、どの言葉もそれぞれの想いが込められていると感じ、すべての言葉を掲示することとしました。
掲示したものを見た職員より、「色々な優しい言葉があって面白い」や「何気なく目に入ると嬉しい気持ちになれる」等の感想をいただきました。今回は1カ月間限定での掲示でしたが、もっと長い期間貼っておいてほしいとのご意見もいただきました。次年度以降にも、前向きな気持ちで参加できる権利擁護の啓発活動として、企画を継続していきたいと思います。

○虐待防止委員会との連携
昨年度のアンケートを受けて、委員会での検討事項の提起、虐待関連のニュース等の周知を行いました。

◇リスクマネジメント部会

・目的　リスクマネジメントを通して、法人コンプライアンスの遵守等、職員への啓発と共に、利用者に安心して利用していただくために、安全と的確なサービスの実施に努めます。

・内容

○リスクマネジメントの実施と把握
・ヒヤリハット：スタッフ間で主体的に声が上がるような雰囲気作りやアセスメントを行いました。また、類似事例が多く出ているため、部署の中で傾向と対策について話し合い、事故に繋がらないよう意識を高めました。
・事故報告書、モニタリング：事故発生後に原因分析、対策を検討することで、様々な視点や気付きがあり、意識の向上に繋がりました。一人のケースを追ってモニタリングを行う事で、傾向と対策が見えてきました。

○定期部会における現状把握と情報共有
・事故対策委員会を開催する事案はありませんでした。
・事故報告・ヒヤリハットの内容確認を行い、俯瞰的な視点で対策・検討をしました。他部署の事例についても、理解を深められるよう共有しました。

○部会員によるリスクマネジメントの学習
・リスクマネジメントに関する目的、役割、実施手順について確認をしました。
・法人全体研修として「ヒヤリハットの分析・要因・発生状況の確認」「送迎ルートの危険カ所確認」を実施しました。危険要因を職員間で共有し、共同して対策の構築や目標を考えました。「ヒヤリハット表彰」を行い、多くの気付きが再発防止の貴重な情報になることを共有することができました。
・新人職員に向けてOJT研修を行い、リスクマネジメントの概要説明、事故報告・ヒヤリハットの記載方法の確認をしました。

○啓発活動
・継続的な啓発活動を行う事で、ヒヤリハットの報告も定着してきました。月によりばらつきもある為、今後も継続した啓発を行っていきます。
・他部署の事故報告書は回覧をし、部署内で類似する事故に関しては各部署ミーティングで周知や、対策の共有を行いました。
・5月、12月に各部署のリスクに関するチェックリストを実施し、振り返り、意識の向上を図りました。

○個人情報保護に対する予防と対策
・個人情報のメール、データ、SNSでの取り扱いについて検討しました。
・チェックリストに個人情報関連の項目を増やして修正を行い、年2回実施しました。職員の個人情報の取り扱いについて見直す事が出来る機会になりました。

○内容、分析
年間事故報告件数　19件　年間ヒヤリハット件数413件

発達児童　　3件　怪我と報告ミス1件、怪我1件、誤請求1件
発達放課後　　2件　怪我1件、書類入れ間違い1件
生活　　7件　怪我2件、発注ミス1件、車輌物損1件、物損1件、書類入れ間違い1件、
情報管理1件
就労　　5件　怪我2件、紛失2件、道具の破損1件
就業・生活　　2件　怪我1件、車輌物損1件

・事故報告19件のうち、怪我が最多の8件(うち、対人同士の怪我は5件、職員の怪我2件)となっています。車輌物損関係の事故報告は2件でした。部署により事故分類で特徴が出ています。
・サービス利用中における、事故発生時の行政への報告義務による報告は、活動中の怪我が3件(受診、いずれも軽傷)ありました。
・発生した事故に関しては事故報告書として作成し、発生状況、要因暫定対策等を確認しリスクマネジメント部会にて定期的な見直し、恒久対策までの確認を行いました。
・ヒヤリハットの年間件数は413件でした。昨年より60件増加しています。内容によってはモニタリングを行い、対策の実施と効果の確認を行いました。内容、対策の共有と記入に対する意識継続の為に、啓発を続けていきます。

◇安全衛生部会

・目的　・各部署に適宜情報発信・助言が出来るように部会員1人ひとりが防災、感染症等について知識を深めスキルアップを図る。
・利用者及び保護者が安心して利用が出来るように法人整備の管理を行う。

・内容

＜研修・訓練の実施＞
○BCP計画・感染症に関する研修
・5月動画視聴
・9月～10月　BCP計画と感染症対策の指針の確認、動画視聴、訓練
・11月　机上訓練○BCP計画・自然災害時に関する研修　・11月　動画視聴、訓練

○防犯研修・訓練　・1月　動画視聴、机上訓練

○新人研修　・6月（AEDの使用方法や応急手当）

○避難訓練
・6月水害（避難場所へ避難を行う）
・7月地震→火災、11月火災（本部は消防署立ち合いの元、実施）

○法人設備管理　法人安全点検　5月、11月

○啓発活動・福利厚生
・各部署の感染症状況の把握、注意喚起　・天候、災害についての情報収集、注意喚起
・インフルエンザ予防接種の推奨、補助申請　・安全運転啓発　:ドライバー講習実施

○感染症対策委員会との連携:3ヵ月に1回

○その他
・BCP計画の見直し、策定　・非常災害対策資料の整備

4月から法令に基づき必須となる研修が増えたため、部署毎に動画視聴や机上訓練を行う機会が増えました。次年度は、安全と衛生に部会をわけ、内容に応じて他部会に業務を引き継いでいきます。

◇地域部会

・目的　地域を知り、地域のニーズをより深く知ることで、法人として取り組めそうなことを検討し内外に発信することで、篠ノ井地区の住民として、また地域の一助として参画していきます。

・内容

○地域のニーズを探り、関係機関へ発信
・地域の行事への参加
南条地区のお祭りへの参加
側溝清掃については来年度4月に参加予定
・地域防災協定について
強度行動障害や医ケアの対応、理解を含め繋がりを模索するなど今後検討予定です。

○篠ノ井びんずるへの参加
・”篠ノ井福祉連”として、篠ノ井地域の障害福祉事業所と篠ノ井びんずるに参加しました。
（ともいき会：15名・法人外3事業所：11名）

○新規施設1階の活用方法の検討
・地域コミュニティーの場として…駄菓子屋、「なんでも窓口」の設置。看板・名前の準備。

○ウィズ・フェスタ2025に向けて
・南条地区や埋蔵文化財センターの祭事等と同時開催等検討。

○法人内外への発信
・トピックスとして地域部会の取り組みを広報誌に掲載。

○外部研修への参加
・篠ノ井びんずる踊り参加連代表者会議
・地域福祉ネットワーク会議「地域と社会福祉法人の連携を考えるセミナー」に参加しました。

令和　6　年度　　ウィズ発達支援センター・児童発達支援　　事業報告

1　事業目的	○就学前児童の支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。
2　事業内容	障害児通所支援　　○児童発達支援
3　事業概要	児童発達　定員10人　開設時間平日9:00～18:00　サービス提供時間9:00～15:00
4　職員体制	管理者・児童発達支援管理責任者1名、保育士4名、児童指導員1名

事業目標	実績報告	実施月
1. 一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。	○保護者の想いをもとに個別支援計画を作成し、計画に基づいた支援をしました。 ・日々の様子を記録しミーティングで振り返りをし、情報共有・支援内容の確認を行いました。	6ヵ月ごと（随時）
	○得意なこと・もう少しで出来そうなことに着目し自信を高め、新たな事柄へ挑戦する意欲を育みました。 ・日々の関わりから出来ることに着目し、生活や遊び、朝の会の課題に取り入れました。	通年
	○利用者の想いを聴いたり表情や様子から考察し、どうしていきたいのか考える時間を設け、利用者の気持ちを汲み取り寄り添いながら現状を解決する手立てや折り合いを付ける方法を探り実践しました。	通年
2. 将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実させていきます。	○ルールのある遊びを経験したり、季節の行事への参加、地域の商店での買い物学習、公共交通機関を利用しての外出学習等の社会体験を計画・実行しました。 ・意欲的に臨む利用者が多く、活動後には達成感や自信に満ち溢れた表情を見ることが出来たり、家庭でも実践したというお話を聴くことが出来ました。	通年
	○就園・就学を意識し、朝の会の課題や朝の準備などの活動を通して、集団生活や社会生活において必要な力を付けていくことが出来るよう支援しました。 ・年齢や個々の発達段階に応じての「できた！」を見極め、支援しました。	通年
	○言葉・ジェスチャー・写真やイラストカードなど、個々にに合わせた表現方法でやり取りをすること、伝わることの嬉しさを感じることが出来るよう支援を行いました。 ・挨拶など、日々の生活で行うコミュニケーションを大切にし、利用者・職員同士はもちろん、利用者同士の関わりも大切にしました。	通年
	○以下の交流を図りました。 【他部署との交流】プチ縁日・ハロウィン・クリスマス会 【地域との交流】りんご狩り・商店街への買い物学習・手作りカレンダーの配布	随時
3.保護者、関係機関との連携を強化します。	○コドモンや連絡ノート、送迎時など、必要に応じて保護者参観・面談を行い、保護者と家庭や保育園・幼稚園との情報共有、情報交換を行いました。	通年
	○支援会議への参加、併用先の園に訪問し情報共有や課題の確認をし、支援の方向性を統一しました。	随時
	○自立支援協議会（こども部会）主催の研修に参加しました。	随時

4.職員の支援技術の向上を目指します。	○三児会を開催し、支援内容や課題について事前に検討し素案としてまとめ、部署内ミーティングやケース検討会で提案したり、支援会議の報告、活動計画や利用者の様子・課題の共有や対応の仕方の統一等、支援の向上を図りました。	週1回
	○ヒヤリハットの報告書の記載、事故報告の検証を行い、再発防止に努めました。また、モニタリングを行い振り返り・改善することが出来るよう努めました。	随時
	○法人研修・部会に参加し、支援技術・意識の向上に努めました。	随時
5.新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	○関係機関にパンフレットの配布・補充を行いました。（保育園・幼稚園・相談支援事業所・療育コーディネーター等）	随時
	○関係機関との情報共有と情報発信を行い、新規利用に繋がるよう努めました。	随時
	○サービスの質の向上を目指し、自己評価表の掲載を行いました。	12月～2月
	○事業所支援プログラムを策定し、ホームページにて公表を行いました。	2月
6.地域の方々に知っていただけるよう発信をしていきます。	○地域の商店に出向き買い物学習を行なったり、プチ縁日や仲良し給食では地域の飲食店と交流を図りました。	随時
	○ホームページで活動の様子・取組等の掲載を行いました。	随時

（児童発達別紙）

1. 利用状況

児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
R04	年度	29	4	12	6	7	12	1719	70.9%
R05	年度	29	3	7	15	14	9	1981	82.5%
R06	上半期	30	2	5	8	15	5	1072	89.3%
	下半期	28	2	5	9	12	2	971	81.3%
	年度	28	2	5	9	12	7	2043	85.3%

○分　析

○3月末、28名の登録。
○療育コーディネーターの紹介での見学・体験、新規利用への流れが主。今年度も半年以上、待機していただくケースがありました。待機している間に待機児童の状況の変化が見られ、すぐにご利用いただくことが出来ないもどかしさを変わらず感じています。
○9割以上が保育園・幼稚園を併用しており完全移行を目標としているため振替を希望する方がおらず、また、園行事等を優先し登園することが多いため、月により稼働率が偏りが見られます。
○今年度も園行事・リハビリ等での欠席が多く見られました。療育コーディネーター等と連携し、新規利用者受け入れのための宣伝活動を行い、利用者の確保に努めていきます。
○コドモン（アプリ）を導入し、入退室の管理・お便りの配信を行いました。保護者・職員共に不慣れな面もありましたが、今後は連絡ノートを廃止しコドモンでの配信を行い、記録の管理や職員の仕事の効率化を図っていきます。

2. 連　携

		支援会議	家庭訪問	関係先訪問	保育園・幼稚園移行（増日含む）
R04	年度	57	13	19	10
R05	年度	70	10	48	12（完全移行2）
R06	上半期	40	4	30	（完全移行1）
	下半期	35	5	22	5（完全移行4）
	年度	75	9	52	5（完全移行5）

連携先

○福祉（南部相談支援センター、千曲坂城基幹相談支援センター）
○教育（各幼稚園・保育園・認定こども園、特別支援学校、各小学校、教育センター）
○医療（稲荷山医療福祉センター、竹重病院、東長野病院）
○行政（長野市・千曲市（こども総合支援センター、こども相談室、保育・幼稚園課）、保健所、各保健センター）
○その他（保護者、親戚）

○分　析

○園訪問・関係者会議を行うことで連携を図っています。
○園と併用している方には園訪問・関係者会議を行うことで連携を図り、就園を希望されている保護者の方には園開放等の情報提供をし、希望する園との支援会議を行い就園のお手伝いをしました。
○利用までの待機期間が長くなっていることで園への移行はもちろん、保育所等訪問のサービスの再開を視野に入れます。
○関係機関と連携を図りながら、保護者の願いである幼稚園・保育園への移行を目指し、令和6年度は5名の児童が園の利用日数を増やし、また5名が完全移行となりました。児童により利用の頻度は様々ですが、児童の様子を観察し園と連携を図りながら完全移行を目指していきます。

令和　6　年度　ウィズ発達支援センター・放課後等デイサービス　事業報告

1　事業目的	将来の「はたらく」大人を目指して、社会体験や、自立した生活を送れるための機会を提供し、自分で選択、実現できる力を伸ばせるような活動を実施していきます。また、集団での生活や遊びの中で、人と人との関わりを大切にしながら、自分の思いを整理して伝えたり、相手を思いやることができる力を育めるような支援をしていきます。
2　事業内容	障害児通所支援　○放課後等デイサービス 地域生活支援事業　○自立サポート、タイムケア
3　事業概要	放課後等デイサービス　開設時間平日8:30～18:00 サービス提供時間14:30～18:00 定員10名　休日8:30～18:00 サービス提供時間9:00～15:00 タイムケア・自立サポート
4　職員体制	放課後等デイサービス　管理者・児童発達支援管理責任者1名、保育士3名 児童指導員3名 地域生活支援事業　指導員等15名（非常勤職員）

事業目標	実績報告	実施月
1.利用者・家族の想いを聞かせていただき、一人ひとりのニーズに寄り添った支援をしていきます。	○個別や集団の活動の中で、個別の目標や課題の達成が出来るよう、手立てを考えながら個人の特性に配慮し、寄り添う支援を行いました。 ・その日の“できる”に合わせた支援や成功体験を本人、保護者、支援者間で共有することでステップアップを目指しました。	通年
	○本人や家族の想いと個別の教育支援計画や障害児利用計画を基に5領域に基づいた個別支援計画を作成し、計画に基づいた支援を行いました。	通年
	○日々の様子や個別支援計画に対する過程や達成状況を記録し、記載内容をスタッフ間で確認しながらモニタリングを実施しました。	通年
2.将来の「はたらく」大人を目指して、活動内容を充実していきます。	○季節に合わせた活動を計画し、社会性やルールを学べるよう目的を持った活動を実施しました。 ・クラブサンズ：竹水鉄砲作り、さくらんぼ狩り、上越小旅行、ボルダリング体験、シュークリーム作り等。 ・ウィズふぁーむ：じゃがいも、朝顔、かぼちゃ作り。水やりや剪定、収穫、調理を行い、種を持ち帰りました。 ・カレンダー制作、おやつ作り、地域のイベント参加、水遊び等。	随時
	○将来を考える機会となるように就労体験を実施しました。 ・地域小を対象に、一般社団法人あいわーくすにてピーマンの収穫体験と調理。学校休業日の利用者を対象に、生活介護のクッキー袋詰め、ポスティング作業等の体験をしました。	随時
	○児童プチ縁日への参加(手芸の準備や看板作り)や体育館交流、生活ウィズリンピック、ボッチャでの交流、キャリサポ川越バスツアー等、他部署との交流活動を行ないました。	随時
3.保護者、関係機関との連携を図ります。	○保護者と日々の様子や連絡調整、学校や関係機関と情報共有を行いました。 ・保護者とは送迎の際や連絡帳、電話等にて日々の様子をお伝えし、保護者や利用者の想いも確認しながら共通認識を持てるように心掛けました。 ・学校、関係機関と引き渡しの際や、参観、電話、会議等で随時情報共有を行い、日頃の様子や目標、課題の確認、支援方法等の統一を図りました。	随時
	○長野市南部グループワークに参加し、報酬改定内容の確認や業務での悩みを話す機会を設ける等、課題の検討、情報共有を行いました。また、学齢期連携会議に参加し、児童センター・プラザの方と現状や課題の共有を行いました。	随時
	○長野市南部の事業所合同で放課後等デイサービス説明会を実施し、事業所の概要や活動内容を説明しました。また、ウィズ児童発達を対象とした説明会も実施しました。	6月.12月

4.職員の支援技術の向上を目指します。	○ミーティングで情報共有や支援についての意識の共有・強化を図りました。 ・定期的に個別支援計画のモニタリング、計画の見直しを行いました。 ・各種会議の内容報告、個別ニーズの確認、活動内容の検討(担当制)、振り返りを行いました。 ・必要に応じて随時、口頭又はLine等で共有を行っています。	月2回
	○ヒヤリハット、事故報告書の記載を行い、必要に応じてモニタリングを実施しました。回覧やミーティングで事案を確認し、対応の検討し実施をしました。	随時
	○外部研修の他、法人内研修、学校見学、懇談、放課後事業所連絡会に参加し、内容についてはミーティングで報告、共有を行っています。 ・障がい福祉従業者新人研修、サビ児管実践研修、専門コース別研修他。	随時
5.新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	○相談支援専門員、関係機関と連絡を取りながら、空き情報等の提供、学校や事業所の見学を行いました。 ・特に地域小利用の方の問い合わせが多くありました。	随時
	○保護者アンケートを参考に、業務改善の目標設定と振り返りを含めた自己評価を実施し、ホームページにて公表を行いました。	11月 ～2月
	○事業所支援プログラムを策定し、ホームページにて公表を行いました。	2月
	○連絡事項や活動を知っていただく為に定期的にお便りを発行しました。また季節毎に活動報告を作成しています。 ・活動報告はホームページに掲載を行いました。	年5回

（放課後別紙）

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	稼働率	大人登録者数
R04	年度	37	25	7	5	5	2415	75.9%	23
R05	年度	40	24	10	6	7	2539	83.4%	23
R06	上半期	39	24	8	7	2	1299	86.0%	19
	下半期	38	23	8	7	0	1321	87.5%	19
	年度	38	23	8	7	2	2620	86.9%	19

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日	26	27	25	27	21	25	27	26	25	23	24	26
延べ人数	208	223	231	231	192	214	245	235	224	196	196	225
大人利用者	117	119	120	126	86	101	105	109	88	87	97	106
稼働率	80%	83%	92%	86%	91%	86%	91%	90%	90%	85%	82%	87%

※定員10名

3. 利用学校別

		養護学校	地域小学校	地域中学校	中間教室	地域高等学校
R04	年度	3	4	0	0	0
R05	年度	3	5	0	0	0
R06	年度	3	5	0	0	0

○分　析

○新規利用者は、児童発達から新1年生が2名利用でした。また年度途中での新規利用はありませんでしたが、利用日の追加の方は3件ありました。また、年度末までに高等部卒業の方2名、進級等による利用日減の3名の計5名が利用終了となりました。
　平日は登録1日平均11.6名、土曜日は14名程度の登録(不定期含む)、1日平均10名程度の予約でした。
　条件や定員の関係で利用には繋がりませんでしたが利用希望の問い合わせも数件ありました。
○年度末登録利用者3名のうち、25名の約65％が稲荷山養護学校の生徒となっています。また、地域校の生徒は10名の26％となっています。
　○祝日の利用については1日2名程度となっており、利用は少ない状況です。

4. 連　携

		支援会議	関係先訪問
R04	年度	37	7
R05	年度	43	10
R06	上半期	20	5
	下半期	30	5
	年度	50	10

連携先

・福祉（市委託相談員、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、長野市ボランティアセンター、他サービス事業所）、教育機関（各特別支援学校、各地域の小学校）、医療機関（稲荷山医療福祉センター、日本赤十字病院、竹重病院）、行政（市町村健康福祉部、こども未来部等）、その他（保護者、親戚）

○分　析

○今年度も6月に長野市南部事業所合同で放課後等デイサービスの説明会を実施しています。
　南部の放デイ事業所が集まるグループワーキングでは、今年度実施された報酬改訂についてのすりあわせや支援者、専門職別ワーキング等、事業所の取り組み紹介やケース検討、支援での悩み等を話す機会を設け、連携を図っています。また、学齢期連携支援会議では児童センター・プラザの方との現状の課題や共有を行う良い機会となりました。
　今後も継続的に関係機関と情報交換を行い、事業所の特徴や空き情報等の発信を行っていきます。
○支援・関係者会議は対面方式の他に、オンライン形式でも継続して参加可能となっています。各種会議については、本人の様子や検討事項、可能性、利用等についての確認、共有を行っています。
○各年齢で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、安心して事業所利用、学校生活、家庭生活が送れることを目標に支援に取り組んでいます。

令和　6　年度　　ウィズキャリアサポートセンター　　事業報告

1　事業目的	「大人になったらはたらこう」の理念のもと、将来自信をもって社会人になることを目指します。そのために、学齢期の自信をもとに自己理解を深め、一人ひとりの自己実現に向けて主体的に自己決定ができるよう、キャリア発達支援をしていきます
2　事業内容	障害児通所支援　○放課後等デイサービス ○自立サポート
3　事業概要	定員10人 平日 開所時間　9:00～18:00　サービス提供時間　14:00～18:00 土曜・長期休暇 開所時間　9:00～18:00　サービス提供時間　10:00～15:00
4　職員体制	管理者1人、児童発達支援管理責任者1人、保育士2人、児童指導員1人

事業目標	実績報告	実施月
1.（利用に当たり） 利用者一人ひとりの想いを傾聴し、目標を明確にした利用ができるよう、サービスを提供します。 安心・安全に利用できるよう配慮します。	○利用開始時には、福祉サービスを利用するに当たり、何を目標にして活動に参加をしていくのか、ご本人・ご家族と確認を行いました。	新規利用時
	○目標を決めるに当たり、5領域のどこに関連するのか、ご本人に説明をしながら個別支援計画の作成を行いました。	新規利用時
	○適宜本人と目標を再確認しながら、意識して利用していることができるように支援を展開しました。	随時
2.（生活スキルの向上） 利用者が自分らしく自信を持って生活していくために、出来ることを増やす支援をします。	○座学だけではなく、ゲーム方式等を取り入れ、楽しみながら学べるような講座を展開しました。	随時
	○幅広い年齢の方が一緒に参加をしても、全員が力を発揮できる活動を提供し、楽しく参加いただけました。	随時
3.(「働く」意欲の向上) 将来、「働くことがイメージできる」支援を提供します。	○平日に参加の難しい高校生に向け、土曜日の午前中にビジネスマナー講座等を実施しました。	1/月
	○例年と同じく、夏休み期間中に合同会社西友にて、体験実習を実施しました。参加された高校生はとても良い経験になったと振り返りました。	8月
	○以前にウィズの放デイを利用し、就職した方のお話を聞く企画を実施しました。在校生の方から積極的な質問もあり、有意義な活動となりました。	8月
4.(稼働率の向上) 新規利用者の確保及び、登録者1人当たりの利用日数を増やしていけるよう活動を展開します。	○中高生だけではなく、次年度に向けて小学生低学年も対象に受け入れを目指し、プログラムの見直しを行いました。	12月
	○通信制の学校へ訪問をし、お互いに情報交換を行いつつ、パンフレットの配布を行いました。	随時
	○バスツアー第2弾を開催しました。他の部署の利用者の方にも参加いただき、楽しく開催することができました。	11月
5.(支援スキルの向上) 職員の支援技術及び資質の向上に勤めます。	○引き続き外部で開催される研修についてアンテナを張り、必要な研修について積極的な参加を行います。	随時
	○サービスの制度だけではなく、子どもたちの流行等にも意識を向け、子どもたちからも「お話をしたい」と思ってもらえるよう努めました。	随時
	○その日のメンバーに合わせて、今必要としている力を見極め、講座を提供できるように努めました。	随時
6.(ネットワークの構築) 保護者・関係機関との連携を強化します。	○5領域を含めた支援プログラム及び保護者評価表・自己評価表を法人HPにて公表を行いました。	2月、4月
	○自立支援協議会への参加の中で他法人との連携を深めてきました。放デイの事業所説明会の開催を、実行委員の中心となり進めてきました。	7、8、9月

（キャリアサポートセンター別紙）

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	平均稼働率
R04	年度	34	7	9	18	9	1441	49.3%
R05	年度	28	9	8	11	4	1349	45.7%
R06	上半期	26	4	13	9	4	648	45.2%
	下半期	26	4	13	9	1	634	43.8%
					年間計・平均	5	1282	44.5%

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	23	25	25	26	26	26	26	24	25	23	22	24	
開所日	25	24	24	26	22	23	26	26	26	26	27	26	301
延人数 平日・休日	70 24	77 18	72 33	75 56	20 106	67 30	70 27	64 33	79 28	60 30	65 36	97 45	816 466
稼働率	38%	40%	44%	50%	57%	42%	37%	40%	43%	38%	46%	59%	

○分　析

○年間を通して、期新規利用者数5名で、中学生3名、高校生2名でした。紹介経路は学校から1名、保護者から2名、相談支援専門員から1名、相談機関から1名でした。利用者全員週1日の利用となっています。サービス利用停止は小学生が1名、高校生が1名でした。理由として、1名は高学年になり、6時間授業のため下校が遅くなり、利用時間が短くなってしまうことと他の習い事もしており、学校も原級にて問題なく過ごすことができているため。もう1名は高校を卒業後に就労支援B型の利用が決まり、卒業直前にサービスの更新時期となったため、更新をせずに終了となりました。また、中学生1名が高校進学を期に部活に入部し、平日の利用が難しいことから卒業のタイミングで利用の終了となりました。

○その他、高校生の卒業生が4名が3月末にサービスが終了となりました。進路として、1名が就職、3名が進学となりました。

○小学生、養護学校の方の利用は安定していますが、地域の中学生、高校生の方のキャンセル・定期的な予約がなくなった方が増えています。主には部活動やテストがある週は予約が入らないこと、高校生では追試や補習のためにキャンセルとなる方が多いです。

○火曜日の新規利用者の獲得はできませんでした。現状のメンバーからの移動は本人の希望により難しく、新規利用者においても、同曜日に塾や他の事業所を利用している等の理由から新規での利用もありませんでした。個別に対応できることも含め、新規の見学者のご要望に応じて勧めていきます。

○これまで積極的な周知の対象として、小学生高学年から高校生までを中心に行ってきましたが、次年度に向けて、小学生低学年の受け入れも視野に入れ、プログラムの見直しも検討してきました。現在行っているレクへの参加が可能かどうか等、新しいメンバーの様子を見ながら検討を進めていきます。
○昨年度に引き続き、バスツアーを開催しました。埼玉県の鉄道博物館・川越市内を観光しました。小さなアクシデントはありましたが、事故等はなく、概ね予定通りに行動することができました。また来年も開催してほしいとのご要望も多くいただき、実施に向けて検討をしていきます。

3. 連　携

		支援会議
R04	上半期	15
	下半期	17
	計	32

連携先

(学校関係)長野養護学校、朝陽教室、稲荷山養護学校、通明小学校、山王小学校、三本柳小学校、篠ノ井西中学校、広徳中学校、櫻ヶ岡中学校、東部中学校、裾花中学校、豊野高等専修学校、長野西高等学校中条校、祥雲高等学院
(その他)長野市南部障害者相談支援センター、ブルースター、はぴねす安茂里、アネモネ、森と木、ながでんハートネット、若穂クリニック、竹重病院、東長野病院

○分　析

○現在利用者が在籍している学校に関しては、支援会議や送迎時に先生と情報交換や現在の生徒さんで放デイを希望している方がいないかどうかを聞きつつ、周知活動を実施してきました。また、竹重病院へも再度パンフレットを30部お渡しし、待合室に置いていただきました。現在利用者の在籍のない学校についても事前に連絡をし、訪問、パンフレットをお渡ししてきました。訪問時には、相手の学校の特色や現在の生徒さんの状況や困り感を聞き、放デイで手伝えることはないかを提案する形で周知をしてきました。
○小学校から中学校、中学校から高校への進学の際に、可能な限り移行支援会議に参加させていただき、新しい学校との連携の強化に努めました。

令和　6　年度　ウィズ生活支援センター　事業報告

1　事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。
2　事業内容	障害福祉サービス　〇生活介護事業
3　事業概要	生活介護　定員20名　開所時間平日 9:00～18:00　サービス提供時間　9:00～16:00
4　職員体制	管理者・サービス管理責任者 1名、支援員 9名、准看護師 1名、運転手 2名

事業目標	実績報告	実施月
1. 生活介護利用者・家族の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	〇利用者の様子や利用者、家族との面談を通し、支援の方向性を確認しながら個別支援計画の作成、モニタリング会議を行いました。	6ヶ月毎
	〇利用者の様子で大きな変化があった時や気になる様子が見られた時は、保護者へ報告を行ないました。状況の把握や今後の対応について保護者と共通認識を持つように心がけ、必要に応じ相談支援専門員と情報共有を行ないました。	通年
2. 活動内容の充実を図ります。	〇はたらくプログラムを実施しました。 ・法人の基本姿勢「はたらく姿を支えます」という観点から、スタッフの仕事ではなく利用者とスタッフが一緒にはたらく姿勢を考えていく事やその中でスタッフができる事は何かという事を改めてスタッフ間で共有する時間を作りました。特にポスティング作業では、出来た事、難しいと感じた事を共有し作業の取り組み方を変更した事で、無理をせずに作業を進める事が出来ました。 ・ズークの内職作業では、利用者の得意なことを生かした作業分担をし取り組みました。治具の作成、資材表の作成や作業のポイントをまとめ、スタッフ間で共有を行いました。 ・あいわーくすの古紙のリサイクルでは、手作業やシュレッダーにて取り組みました。古紙の回収基準の案内を作り、紙の仕分け方をスタッフ間で再度共有しました。利用者の取り組みやすい方法に合わせてスタッフが事前に準備をすることで全ての利用者が作業に関わる事ができました。 ・アパート清掃は6カ所請け負い、法人内作業は、玩具の消毒、洗車、草取り、利用者に写真を編集してもらいお便りの発行等を行ないました。	通年
	〇くらすプログラムを実施しました。 ・更衣、準備、片付け、歯磨き、お手伝い等を通し、利用者に合わせて支援の方法を変えながら、生活レベルの向上を目指しました。	通年
	〇あそぶプログラムを実施しました。 ・ボッチャや風船バレー、ウィズリンピック等、ミニ大会風に企画をして室内で体を動かして楽しむ機会を作りました。 ・外出外食では、「バリアフリー、楽しめる、安心」の視点で外出先を選びました。 ・アート活動では月に1回講師を迎え、墨遊びや絵具、クレヨンを使い絵画を楽しみました。課題に感じる行動をアートの一部として取り入れ、利用者の過ごし方とスタッフの関わり方を見直す事でどの利用者も参加出来るように発想を変換していくよう努めました。	6ヶ月毎
	〇土曜日開所は、5名の利用登録があり、外出と外食を中心とした余暇を楽しむ機会を提供しました。	通年

2. 活動内容の充実を図ります。	○健康管理については、毎日の検温、月1回の体重測定、保健だよりの発行を行ないました。利用者にいつもと異なる変化が見られた時には、検温を行い発熱がある時は保護者への連絡を徹底しました。早めの対応を取る事で体調の悪化を未然に防ぎ、サービス利用への安心に繋がるよう心がけました。 ○外出時は、散策を取り入れる事で体を動かす機会を作りました。夏の猛暑日は、外での活動を控え室内で体を動かす活動に変更をしながら過ごしました。過ごしやすい陽気の時には、午後の活動の際にウォーキングに出掛けました。	通年
	○法人内の他センターと連携し、くらす・あそぶプログラムの充実を図りました。流しそうめん、ウィズリンピック、プチ縁日や体育館でのボッチャ体験等の企画を一緒に行いました。また、カレンダー作成やフェルトコースター等の制作活動も一緒に計画を進めました。 ○はたらくプログラムでは就労支援センターと協力、調整をすることで、役割分担をしながら作業を進めることができました。 ○地域の事業所にご協力をいただき、お菓子の販売会を行いました。	通年
3.新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○見学対応3件、実習を5件を受け入れました。新規利用の相談では、実習の受入を始め、利用先の事業所や学校へも見学に行きました。稲荷山養護学校の高等部2・3年生に向けた事業所説明会（生活と就労の合同）に7家族が参加されました。 ○発達支援センターの利用者に「はたらくプログラム」を体験してもらう機会を作りました。	通年
	○長野市障害福祉ネット「かつどう部会」へ参加しました。 「生活介護の報酬改定後の影響について」との議題で情報交換を行いました。	8月
4.職員の支援技術向上を目指します。	○ヒヤリハットや事故報告・気付きを共有し、再発防止に努めました。スタッフ間のミーティングでは、個別支援計画に対してのモニタリング会議や日々の支援の中で、気になった事や対応に迷うことを取り上げて支援の方向性を話し合い、共通の認識を持って支援を行えるようにしました。 ○てんかん発作時の対応についてケースを振り返りながら、スタッフに向けて発作時・救急搬送時について確認を行いました。	通年
	○他事業所への見学、サービス管理責任者実践研修へ参加をしました。また、支援会議に参加したことのない支援員も会議に参加する事で様子を知る機会を作りました。	通年

（生活別紙）
1. 利用状況

		期末利用者数	新規利用者数
R04	年度	21	1
R05	年度	21	1
R06	上半期	21	0
	下半期	20	0
	年度	20	0

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
R04	年度	0	5	10	6	5
R05	年度	0	4	11	6	5
R06	上半期	0	4	10	7	5
	下半期	0	4	9	7	5
	年度	0	4	9	7	5

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	21	21	21	21	21	21	21	21	20	20	20	20	21
開所日	22	22	21	23	18	20	23	21	22	20	20	21	21
延人数	352	354	337	370	289	323	376	330	336	317	297	329	334
稼働率	80%	80%	80%	80%	80%	81%	82%	79%	76%	79%	74%	78%	79%

○分　析

○20名の定員に対し20名の登録となります。
・11月末に1名利用終了しています。就労継続B型の事業所へステップアップをしていきたいという本人の希望があり、8月から就労継続B型の見学や実習を進めていきました。
・新規利用登録はありませんでしたが、来年度と年度途中での新規利用の相談が4件、実習に向けた相談もありました。地域の生活介護も含め、受け入れの枠が少なくなってきている事から、併用での利用希望が増加傾向にあります。
・4月に報酬改定があり、利用者の利用日毎にサービス利用時間の調整を行いました。また、新たに3名、重度支援加算（区分6かつ行動関連項目10点以上→360単位/日、区分4かつ行動関連項目10点以上→180単位/日）を取り始めました。現在、5名が重度支援加算を取っています。

○月あたりの平均利用者数は16人となりました。稼働率は下半期、体調不良の欠席が多く前年度より1パーセント下がっています。月曜～金曜日の受け入れは、全体で87％の利用登録があり、少ない曜日は75％、多い曜日が95％の利用登録がありました。

○個別面談4件、電話面談7件、支援会議35件、区分調査3件を行いました。

○活動面については、事故報告や利用者の相性、介助の必要性のバランスの中から、活動グループを変更したり、活動の部屋を分けて対応をしました。また、利用者同士お互いに話し合いの場を設ける機会を作る場面もありました。グループに分かれた中でも情緒に応じて活動を切り替えウォーキングやドライブに出掛けたり、個別に対応する中で、利用者同士がお互いに安心して過ごす事ができるように活動を行ないました。

1　事業目的	障がい者が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加してくことができるように、ひとりひとりの願いに応じた就労支援を行っていきます。就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』『はたらきたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。
2　事業内容	障害福祉サービス　○就労移行支援　○就労定着支援 ○就労継続支援B型 助成金・補助金　○職場適応援助者（ジョブコーチ支援・訪問型）
3　事業概要	定員：就労移行10名、就労継続支援B型10名 開設日：月曜日～金曜日（平日）及び土曜日（1/月） 開設時間：8:30～17:30 サービス提供時間：9:00～16:00
4　職員体制	○管理者・サービス管理責任者1名　○就労支援員(移行)2名 ○生活支援員（移行）1名　(B型)1名　○職業指導員（移行）2名（B型）2名　○定着支援員2名

事業目標	実績報告	実施月
1．一般就労を目指します	【就労移行】 ○就職者数5名（目標：5名以上） ・定着支援先企業と連携して、見学・体験を実施したり、学習会にて企業担当者から話を聴くことで、企業の生の声に刺激を受け、働くイメージ作りができました。合同企業説明会に参加し、就職に向けての視野を広げたり、強みを活かせる仕事を自分で選び、積極的に見学や体験を行いました。	通年
	【就労継続B型】 ○就職者数0名（目標：1名以上） ・自分のペースでゆっくり働く準備を整えていく方から、就職に向けて活動している方まで、個々に応じたステップで、意欲を高めていくことができました。ご本人の希望に合わせて、見学や就職説明会に参加したり、就職に向けた実習も行いました。出勤や生活状況が不安がある方も短時間の職場体験やA型での実習を行う事で、視野を広げる機会となり、自信に繋げることができました。	通年
	【共通】 ○個別支援計画について ・2週間に1回振り返りを行い、ご本人が主体的に計画を立てられるよう一緒に考えました。スタッフ全員が利用者とじっくり話す時間を作ることで、誰にでも相談できる雰囲気づくりや素直に話せる関係を築いていくことができました。一人一人の目標に合わせた確認票などのアイテムを作成することで、前向きに訓練に取り組むことができました。	2/週
	【共通】 ○定期的な支援会議の実施について ・3か月毎のモニタリングに合わせて、ご本人・保護者・関係機関と情報共有を図りました。事業所や家庭での様子、就職に向けての課題等について確認をし、安心して活動できる環境を共に作ることができました。	通年
2.一人ひとりのニーズに合わせた働く場を提供します	【共通】 ○施設外就労について ・老人ホームでの清掃やシーツ交換、金属加工会社にて製造に係る作業を行いました。施設外に出ることに不安が大きかった方も、作業内容や工程を工夫し、個別のステップで自信を付け、施設外就労に参加することができました。	通年
	【共通】 ○新規実習先の開拓 ・定期的に利用者と一緒にハローワークに行き、求人検索や相談を重ねる中で、新規企業への問い合わせを積極的に行いました。ご本人の希望に合わせて、職種や環境を調整し、体験・実習を行いました。	通年

	【就労継続B型】 〇事業所内訓練の充実について ・他部署と連携し、お菓子のパッケージ作業やアパート清掃、ポスティングを行いました。 ・音響機材の梱包作業を8月より試行的に行いました。手順の固定化が難しく、契約には至りませんでしたが、カッターやはさみ・梱包材を加工する等、安全に機材や道具を扱う作業経験ができました。 〇工賃アップについて ・老人ホームのシーツ交換作業の受託範囲を広げたり、金属加工会社の新規作業を請け負うことで活動日や人数が増え、工賃アップに繋がりました。	通年
	【共通】 〇社内学習会について ・土曜日開所を中心に学習会を行い、前年度の内容を見直してリニューアルしました。就職に向けた座学やSSTを中心に、余暇的な要素の企画も取り入れながら、楽しんで参加できるよう工夫しました。 ・働くとは　・挨拶、言葉遣い　・身だしなみ　・日常生活　・お金の使い方 ・企業の方の話　・良いところ探し　・履歴書の書き方　・面接の受け方 ・就職活動をしてみよう　・みんなで楽しもう！（身体を動かすゲーム） ・就職までの道のり　・パフェ作り　・サンアップル出前講座（ボッチャ等） ・感染症について　・男子トーク　・女子トーク　・ランチ会　・初詣　・書初め ・自分の好きな事を伝えてみよう　・となりのココロ　・年間振り返り	毎月
3.就職後も安心して働き続けることができるよう、丁寧なフォローアップをします （目標定着率80％以上）	【定着支援】 〇企業訪問、面談等の定着支援について ・就職後は、職場や医療との連携、社協やGH等の関係機関との情報共有を通して、ご本人が安心して生活し、働き続けられるよう支援しました。定着支援終了後も安定して働き続ける方がいる一方で、精神的な不調が続く方は、体調や生活を優先して離職支援を行いました。 〇在職者交流会 ・事業所移転のお披露目を兼ねたセンターでの会食に28名、ラウンドワンのスポッチャに21名が参加し、近況報告や交流を深めることができました。	通年
4.職員の就労支援技術の向上を目指します	〇支援スキルの向上について ・毎日夕方の申し送りと毎週水曜日にスタッフミーティングを実施し、日々の様子や課題、スタッフの関わり方などについて振り返りました。 ・職員全員がハローワーク同行、職場見学や体験など、就職活動に関する施設外支援に対応できるよう、段階的に経験する機会を設けました。	随時
	〇外部研修参加について 精神保健相談支援者研修(リモート)、支援技法活用セミナー、障害者虐待防止権利擁護研修会等、新人～中堅職員を対象とした外部研修に積極的に参加しました。次年度10月より開始する就労選択支援サービスについての研修に複数回参加し、学びを深めています。	随時
5.新規利用者の確保に向けた活動を展開します （目標年間平均稼働率80％以上）	〇利用者確保に向けて ・相談支援事業所との連携や見学・体験の受け入れを積極的に行うことで、移行14名（うちアセスメントのみ8名）、B型5名が利用に繋がりました。また、広報活動の一環として、ホームページのリニューアルや紹介動画を作成しました。関係機関に向けては、ウィズ便りやパンフレットを配布し、周知活動を行いました。就職による利用者の減少等により、就労移行の平均稼働率は57％、B型53％となっています。	通年

（就労別紙）

1．利用状況

		就労移行		定員　10		
		開所日	延利用者	稼働率	実利用者	内新規
R04	年度	253	3276	92.5%	25	14
R05	年度	252	2950	90.3%	25	11
R06	上半期	125	721	57.7%	14	6
	下半期	125	715	57.2%	13	8
	年度	250	1436	57.4%	22	14

※アセスメントのみの利用者8名

就労B型	定員　10			
開所日	延利用者	稼働率	実利用者	内新規
－	－	－	－	－
62	186	30.0%	6	6
125	654	52.3%	10	3
125	676	54.1%	12	2
250	1330	53.2%	12	5

		就労定着				
		登録者数	延利用者	内新規	離職者	定着率
R04	年度	16	98	3	1	81%
R05	年度	17	100	5	0	93%
R06	上半期	15	51	1	4	
	下半期	11	38	3	0	
	年度	18	89	4	4	83%

2．利用経路　※(　)内B型

※サービス変更は就労アセス→Bも含む

	市町村	就業・生活支援センター	医療機関	教育機関	相談機関	センター内のサービス変更	その他
上半期	0	3	0	4(2)	9(1)	7(6)	0
下半期	0	1	0	0(1)	7(1)	0(1)	0
年度	0	4	0	4(3)	16(2)	7(7)	0

○分　析

就労移行

3月にB型へのサービス変更や不調による利用終了者が4名あり、4月は8名（内新規1名）でスタートしました。見学者16名・体験10名の受け入れを行い、6名が利用、1名が次年度の利用に繋がっています。就労アセスのみの利用者8名の内、ウィズB型利用に繋がった方は3名となります。利用者の希望に合せて積極的に就職活動を行い、5名が就職しました。就職者とアセスメント後にゆっくり自分のペースで働くことを選択してB型を選ぶ傾向が高くなっていることや週3日から少しずつ調子を整えていく方も多く、稼働率は57％となりました。

就労継続B型

昨年1月からサービスを開始し、今年度は利用者7名でスタートしています。病気による利用終了が1名、他B型への移行者が1名いましたが、新規利用者が5名加わり、現在は9名の方が利用しています。在宅生活を送られていた方が週1回半日の活動から始め、週3日半日安定して通えるようになったり、施設外作業に不安が強かった方も少しずつ行ける日を増やしており、稼働率は52％となっています。ゆっくり自分のペースで準備をしている方も、職場見学や職場体験、就職説明会への参加を通して、就職への意欲を高めていくことができました。

就労定着

今年度は18名の方が利用し、3名が利用期間(3年)が終了し、ナカポツに引き継いでいます。安定して3年を経過する方がいる一方で、4名の方が離職となりました。職場や関係機関と定期的に会議を開いて振り返りをしたり、訪問看護・医療と連携してご本人が安心して働き続けられるようサポートに努めてきましたが、体調不良や欠勤等が続き、離職となっています。オフ会（在職者交流会)は、事業所移転のお披露目を兼ねたセンターでの会食に28名、ラウンドワンのスポッチャに21名が参加し、近況報告や交流を深める様子がありました。職場や関係機関と連携してサポートを行い、過去3年間の定着率は83％となっています。

3. 実習状況

		見学	実習	ｼﾞｮﾌﾞｺｰﾁ
R04	年度	18	9	9
R05	年度	22	11	8
R06	上半期	11	4	3
	下半期	4	4	2
	年度	15	8	5

見学及び実習先(職種)

(見学)
・丸水長野県水　・オリオン精工　・松代総合病院
・マツモトキヨシ南長野運動公園店
・信濃機工　・長野リネン　・ハードコート
・八光　・日本無線　・新光ﾃｸﾉｻｰﾌﾞ(長野・千曲2か所)

(見学・実習)
・ウエルシア篠ノ井小森店(商品の品出し等) 2回
・ウエルシア稲荷山店(　〃　)
・西友伊勢宮店(値付け・品出し等)
・デイリーはやしや(番重の洗浄)
・松代総合病院(事務・環境整備)
・三和製作所(製造補助等)
・マツモトキヨシ南長野店・運動公園店(品出し)

○分　析

年間計画に沿って、見学15件、実習8件実施しました。働くイメージづくりを目的に希望者全員がグループでの見学を行い、B型利用者も8割の方が参加しました。2年目の利用者については、ご本人が選んだ求人情報から見学・実習を行い、自主性を大切にして活動しました。企業説明・就職面接会には、移行4名・B型5名が参加し、就労意欲を高めることができました。移行だけでなく、B型の方も同じように就職に向けた活動に参加し、将来働くことをイメージできるよう活動しています。

4. 就職状況

		就職者数	平均 利用期間	平均 実習日数
R04	年度	5	1年9ヶ月	15
R05	年度	4	1年2ヶ月	14
R06	上半期	4	1年7ヶ月	19
	下半期	1	1年3ヶ月	5
	年度	5	1年5か月	16

就職先

・日本無線株式会社
・ウエルシアオアシス(配属：篠ノ井小森店)
・西友伊勢宮店
・デイリーはやしや千曲工場
・松代総合病院

○分　析

就労移行　就職者5名

利用者一人一人が興味のある職種で仕事を探し、体験・実習を重ねながら、5名の方が就職しました。適性や強みを活かせるような職種や環境の調整等を行うことで、希望の仕事に就くことができました。「体験→振り返り(強み・課題の確認)→訓練の中で練習→実習」の流れの中で、ご本人と丁寧に向き合い、自信を付けながら成長していくことができました。

就労継続B型　就職者0名

1名の方が就職に向けての活動を積極的に行い、2か所の見学・実習を行いました。ご本人の適性や課題について振り返りを行い、次年度再実習予定です。

1　事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて総合相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、支援に取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。
2　事業内容	障害福祉サービス　○指定特定相談支援事業 ○障害児相談支援事業
3　事業概要	開設時間平日9:00～18:00
4　職員体制	管理者1名、相談支援専門員2名（専従2名）

事業目標	実績報告	実施月
1. 基本相談支援を行います。	○基本相談はウィズの各センターを利用する方が主でしたが、その他総合支援センターからの依頼で外部の相談支援も実施しました。相談支援機関として中立公平性、客観的な視点をもって取り組みました。	通年
	○相談内容は多岐に渡りました。障害福祉サービスだけでなく、インフォーマルな支え（家族、友人、地域の方々など）と密につながっていく必要性を感じました。	
2. 質の高い事業者を目指します。	○日本相談支援専門員協会主催の県外研修に参加し、報酬改定、災害時の相談支援、地域生活支援拠点といった話を聞いたり、グループワークを通して理解を深めることができました。	通年
	○長野市ふくしネット相談支援事業所連絡会、長野市南部の会に参加し、スーパービジョン、相談支援の役割、報酬改定について学習をし、他相談員との課題の共有、解決に向けての取り組みについて意見交換を行いました。	
3.関係機関との連携を強化します。	○相談内容に応じて、本人、保護者、幼保、教育、行政、福祉、労働、その他関係機関と顔の見える連携を心がけ、繋がりを作ってきました。	通年
	○主任相談支援専門員の連絡会は定期的に開催され、次年度の相談支援体制、地域の相談支援事業所を巻き込んでの地域支援体制づくり、連絡会の計画について話し合いがされました。	

○利用状況

		障害児相談支援　子ども			特定相談支援　大人			備　考
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
R04	年　度	82	104	144	70	67	140	
R05	年　度	79	86	149	70	70	129	
R06	年　度	77	91	146	72	68	141	

分　析

登録者数については、横ばいとなりました。数自体は横ばいですが、新規利用者数は子どもで10人、大人で5人となりました。新規利用とサービスの終了に伴う相談支援の終了とで人自体の入れ替わりはありました。
南部障害者総合支援センターや他事業所から、新規利用の依頼もありましたが、お断りするケースも多くありました。サービスを利用したくても相談支援専門員が見つからず、サービス開始まで数ヶ月待つといったケースが増加してきており、このことについては、一事業所で何かというよりは、長野市全体で考えていく課題となっています。
今年度初めて県外研修に行き、広義な話を聞いたり、県外の相談支援専門員と交流を深めることで幅広い見識を深めることができました。

1　事業目的	地域での生活や日中の活動ができるように、ひとりひとりの願いに応じて生活面や就職活動から職場実習、就職後のフォローアップまで就労の場の確保と安定した職業生活が実現できるよう支援します。また、関係機関や諸団体等の連携を図りながら各種社会資源を最大限に活用し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし・働き続けられるよう一役を担っていきます。
2　事業内容	雇用安定事業　・　生活支援事業 長野県短期トレーニング事業
3　事業概要	開所時間:9:00～17:30、月～金
4　職員体制	所長兼主任就業支援ワーカー　1名　就業支援ワーカー　4名(うち定着支援担当 1名) 主任職場定着支援ワーカー　1名　生活支援ワーカー　1名　計　7名

事業目標	実績報告	実施月
1. 本人・家族の想いに寄り添いながら就業・生活支援を行います	○就業支援 ・面談～職場見学・実習と本人の意向を確認しながら本人が意思決定できる支援に努めました。 ・アセスメントの実施、個別支援計画作成は進めており、それを基にした支援を行いました。	通年
	○実習支援 ・『見るだけ』、『体験だけ』の方は今年度2名でした。職業選択で迷う利用者にとっては良い経験、機会になりました。 ・実習制度が企業に広く周知されるようになり、実習本来の”体験”目的ではなく”選考”の手段として利用されることが増えており課題が残ります。	通年
	○定着支援 ・定着訪問のみでなく、電話やメール等を用いて支援を行いました。在職者が増えてきているので、優先順位をつけ必要な企業に訪問をしました。 ・離職希望や企業からの相談ケースは、主任職場定着支援担当が中心となり、本人、企業双方にとって良い方法を考えながら進めました。	6ヶ月毎
	○生活支援 ・就職前に福祉サービスの利用を希望する方も多かったため、見学や体験など本人が不安にならないよう支援を進めました。 ・体調面が整わず就職までの道のりが遠い利用者に寄り添いつつ、関係機関の方と情報共有をしながら面談を重ねてじっくりと向き合いました。	通年
2.地域とのネットワークの構築や、在職者・求職者のための交流会を開きます	○地域のネットワーク構築 ・ハローワークの専門援助部門と事業所部門の担当者と情報共有、連携強化ができるよう連絡会議を開催しました。 ・中高年の障害者雇用をしている企業7社に対し、地域の中にあり気軽に立ち寄り相談も出来る”だがし家らそ”にて懇談会を開催しました。らその所長より福祉のサービス等についてお話して頂いた後、企業の皆さんからも活発な質問や意見交換がされました。	通年
	○関係機関との連携 ・圏域内の自立支援協議会に参加し、関係機関と情報共有を図りつつ地域にとって有益な情報提供や提案が出来るよう努めました。 ・個々のケースでは役割分担を意識し関係機関と密な連携を図りました。	6ヶ月毎
	○在職者交流会・ピアサポート事業 ・在職者交流会は集合型4回、プレ(特別支援学校就職内定者)を1回開催しました。集合型では計4回で47名の参加があり、お金の遣い方について話しました。プレでは25名が参加し、生活に必要なお金を知る、実際に給料を振り分ける、クレジットカードや借金について親子で考える機会になりました。 ・ﾋﾟｱｻﾎﾟｰﾄは2回開催。企業見学会で1社の見学を行いました。また9月に全3回で就職面接会に向けた講座を実施しました。講座は3～4名が参加しました。 ・在職者交流のひとつとして、川越へのバスツアーを計画、実施しました。ナカポツからは在職者15名が参加しました。見学や想い想いにお土産を購入しリフレッシュする姿が見られました。	通年

3.新規の利用者、企業、サービス提供事業所の掘り起こしをします	○キャンペーン ・自立支援協議会等でセンターの役割や支援について周知しました。 ・ゼロ企業や未達成企業を訪問し、業務の切り出しや職場環境のアセスメント等の支援をしました。	通年
4.職員の就業・生活支援技術の向上を目指します	○ミーティング・研修 ・毎日17:20～、毎週水曜日午後にミーティングを行いました。各自ケース報告や課題のあるケースについてはケース検討を行いました。 ・社外研修に参加をして、個々の支援力向上や法改正、雇用情勢等の情報収集に努めました。	6ヶ月毎

（長野圏域障害者就業・生活支援センター　別紙）

1．利用状況

		期末利用者数	新規利用者数
R04	年度	862	116
R05	年度	955	94
R06	上半期	995	40
	下半期	1057	62
	年度	1057	102

障害種別・就業別

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
在職中	57	25	344	98	242	14	657
求職中	19	6	95	21	178	12	304
その他	5	2	41	7	45	5	96
合計	81	33	480	126	465	31	1057

1）出身地域別

	上半期	下半期	合計
長野市	762	44	806
同一圏域内	224	14	238
その他	9	4	13

※同一圏域内

須坂市、千曲市、信濃町、飯綱町、小布施町、高山村、小川村、坂城町

2）新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度計
ハローワーク	12	10	22
職業センター	0	0	0
特別支援学校	0	21	21
就労移行	6	9	15
福祉施設	5	6	11
行政	2	2	4
直接利用	3	6	9
その他	12	8	20
合計	40	62	102

3）相談・支援（システム上）

		件数
R04	年度	8,694
R05	年度	8,101
R06	上半期	4,092
	下半期	4,251
	年度	8,343

4）オンライン支援件数

		件数
R06	上半期	9
	下半期	16
	年度	25

5）月別利用人数（実人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
250	241	249	246	218	249	243	240	234	232	229	253	2,884

○分　析

・新規相談について

R6年度の新規相談は160件でした(上半期:89件、下半期:71件)。相談の内訳は求職中:23件、在職中:17件、実習22件、学生9件でした。そのうち新規登録に繋がったケースは102件でした。求職者では普通高校・大学・専門学校の生徒の相談が増加しました。若い年代やブランクがあり就労準備性が整っていない方の相談では関係機関とも連携をしながら、福祉サービスの利用も含めてご本人が気づきを持てるように支援を行いました。在職者からは転職をするか働き続けるか迷っている相談が多くあり、就業と定着の両面から支援を行いました。

・登録者について

R6年度末時点でのセンター登録者は1057名でした（昨年比：＋102名）。新規の相談者に対しては面談を重ねながら本人・家族の意向を聞き取り、必要と感じていただいた時点で登録をしました。相談内容に応じて委託相談員やその他関係機関を紹介するケースもありました。

・生活面について

福祉サービス利用に繋がった相談は13件（就労移行5件、A型3件、B型5件）です。生活支援ワーカーによる相談は延べ801件で昨年に比べ10件減少しています。減少理由としては、就業支援ワーカーが就業支援と生活支援を同時に行った件数が増加したためです。主な相談内容は、「就労（24.39%）」、「不安解消・情緒安定（21.84%）」、「家族関係・人間関係（14.60%）」の相談が多い状況にありました。求職者では一般就労へ向かう不安を聴き取ったり、福祉サービスの見学同行等を行いました。在職者には情緒面や人間関係の相談についてご本人の希望を丁寧に聞き取り働き続けられるよう支援しました。

・相談支援件数について

3）について…延べの相談件数を記載しました。昨年より約242件程件数が増加しました。来所相談や電話、メールでの相談の増加しました。4）では、オンラインでの支援件数を記載しました。定着の面談や支援会議、他圏域のナカポツに引き継ぐためZOOMを使い連携を図りました（昨年比：+7件）。5）では月別相談者の実人数を記載しました。昨年とほぼ変わらない件数でした。（昨年比：+47名）。

2. 実習状況

		実習	職業準備訓練	実習からの就職率
R04	年度	109	0	51%
R05	年度	104	2	58%
R06	上半期	40	0	69%
	下半期	64	0	51%
	年度	104	0	58%
		(延べ件数)		(実人数)

3. 一般就労に向けたアセスメント件数

R06	上半期	15
	下半期	20
	年度	35

4. 個別支援計画作成件数

R06	上半期	8
	下半期	7
	年度	15

○分 析

・職場実習について (目標値:実習斡旋件数108件)
R6年度は昨年と同数の104件でした。短期トレーニング利用の実人数は71名で、うち41名が就職となりました(移行率58% 前年58%)。体験的な実習として実施した方は2名でした。104件のうち59件が1回の実習で(57% 前年45%)、実習期間がここ数年短くなっています(1回平均5.2日 前年5.2日)。2週間(10日間)の実習を提案しますが、昨年から法定雇用率が段階的に引き上がっているため雇用への動きが活発であり採否の判断が早くなっていることが考えられます。職場実習開拓件数は20件(前年比:－8件)で一度つながった企業との関係が構築されて再度実習をするケースが多くなっています。

・一般就労に向けたアセスメント、個別支援計画の作成について
R6年度のアセスメント件数は35件で、個別支援計画の作成件数は15件でした。センター内でのツールを使ったアセスメントや実習中の様子をアセスメントしつつ、新人職員が入ったこともありアセスメントの視点をもって面談することも大切にしました。アセスメントをまとめ、個別支援計画を作成することでしることでご本人へフィードバックを行いいました。ご本人の希望を確認しながら目標を共有して支援を行いました。件数、精度ともに向上していけるようセンター内で努めていきます。

3. 就職状況

		就職者数	定着職場訪問
R04	年度	66	922
R05	年度	71	697
R06	上半期	55	317
	下半期	19	306
	年度	74	623

主任職場定着支援ワーカーの相談状況(支援件数)

	身体	知的	精神	その他	合計
業務内容	0	51	34	0	85
対人関係	0	19	22	0	41
生活面	0	18	4	0	75
その他	0	3	2	0	2
合計	0	91	62	0	203

○分 析

・就職について (目標値:就職件数70件、就職率80%)
今年度の就職件数は74件でした(一般66名、A型4名)。所属機関がなく、当センターのみで相談をしている就職者は新卒を含め63名でした(一般63名、A型0名)。就職件数は昨年度と変わらずですが、法定雇用率が引き上がる事を見据えての雇用への動きは引き続き活発であり、すでに繋がっている企業を中心に求職者を求められ就職につながるケースもあります。しかし新規相談の中で、すぐに就職に向けて動くことができる求職者が少ないこと、体調が悪化して離職した方が福祉サービスを次の選択肢とする傾向は続いており、求職者の就職への意欲向上に繋がるよう『見るだけ！聞くだけ！体験だけ！』キャンペーンをさらに進めていきます。新規求職者数98名に対し就職率は75.5%でした。

・定着支援について (目標値:1年経過後の定着率90%)
今年度は623件(昨年度比:-74件)でした。R5年4月～R6年3月に就職をした方の1年経過時の定着率は94.4%でした。精神障害・発達障害の在職者からは人間関係等での悩み相談が多くあり、話す場があることが安心に繋がるとのことで、訪問の希望は上がらず面談や電話・メールでの支援が中心の方が増えています。その上で必要に応じて企業へ訪問し企業担当者と相談することで、定着に繋げることができました。
また就労定着支援事業所からの引き継ぎが6事業所12件ありました。半年前に連絡をいただき面談同席や職場訪問に同行をして、ご本人が不安にならないよう引き継ぎを進めました。

・主任職場定着支援担当について
職場定着が困難な事例の相談件数は153件でした。一般企業の雇用の間口が広がっていることから、職業準備性が整っていないと思われる方が就職後に不適応を起こすケースが多い傾向がみられました。業務内容の見直しや働き方について、関係機関や企業と相談をしながら双方にとってベターな方法を模索しました。企業からの相談については、25社の企業から67件の相談がありました。長期雇用の方の勤務態度や出勤率に課題があり、今後の雇用に不安を抱える相談が多くありました。本人の状況確認、時間や業務内容の見直し、本人の意識改革等を行い改善を図り調整を図ることで職場定着に繋げましたが、やむを得ず退職をするケースについては、双方にとっていい終わり方ができるよう配慮をしながら退職の手続きを進めました。